



道標

みち

しるべ

2014/2/26
NO. 103

〈編集・発行〉

東中3年

進路指導部

《公立一般出願終わる!》

昨日は、公立高校の出願でした。大勢で出願に行った人もあれば、ひとりで行った人もいます。多少時間はかかったけど、全員無事に出願できたことが良かったです。

実際に交通機関を利用して、受検校にしてみると、気持ちも引き締まったのではないのでしょうか。

これから進路決定の本番を迎える人が多いです。その前に卒業式があるので、寂しい気持ちを持ちながらの受検となるでしょう。

でも、ここで受検に集中させる必要があります。あと、もう少しです。みんなで頑張りましょう。



《今後の予定》(再掲)

3月

- 02(日) 通信制前期入試
- 03(月) 定時制前期出願
- 05(水) 定時制前期合格発表
- 07(金) 定時制前期入試
- 10(月) Bグループ学力検査
- 11(火) " 面接
- 13(木) Aグループ学力検査
- 14(金) " 面接
- 19(水) 公立一般入試合格発表
(合格者は12時に錬心館前に集合)
- 20(木) 定時制後期出願
- 24(月) 通信制後期出願
- 26(水) 定時制後期入試
- 27(木) 定時制後期合格発表
- 30(日) 通信制後期入試 発表は4/2



進路担当より

「入学試験」「受験生」の季語は春だが、イメージは冬の方がぴたっとくる。



〈真四角な消しゴムをのせ受験票〉森田公司

受験は本人だけでなく、家族や周囲を嫌でも巻き込んでしまう。試験のできに気をもむ人はその何倍、何十倍ということになる。受験生は今勉強で頭がいっぱいだろうが、家族の励まし、用意してくれた夜食のこともやはり忘れないでほしい。

そうはいっても試験である。だれも助けてくれぬ。入試に人生上の意味があるとすれば「結局自分でやるしかない」という現実を学ぶ最初の機会ということか。受験はまだ公平な方で、慰めにもならぬが、大人になれば努力だけでは勝てない競争もある。

ひとつ笑って緊張をほぐしてもらおう。作家の遠藤周作さんは数学が苦手だった。ある試験で「三角形の二辺の和は他の一辺より大である。三角形の内角の和は180度である。これを証明せよ」という問題が出た。

頭をひねっていると、ひらめいた。その答えが「まったく、そうである、そのとおり」。そう書いた。もちろん先生に怒られた。

「中日新聞」2014.1.19より抜粋

この記事を読んでいると、周りの人の支えや自分でやるしかないこと、答えはわからなくても、何とかしようとする姿が書かれています。

もう、何度も言われてわかっていることだと思えますが、受験は一人で挑んでいるようで、実はそうではないのです。でも、自分があきらめてしまえば、そこで終わってしまうのも受験です。

まだまだ、ここからです。

